ピロリ菌感染と診断された生徒、保護者の方へ
ピロリ菌除菌治療に関する説明と同意文書

ピロリ菌除菌治療についての大切な説明です。きちんと読んでいただき、わからないところは必ず医師に相談してください。

1. ピロリ菌について：

ピロリ菌は主に小学生に入る前頃までに、多くの場合は気がつかないうちに感染して、ずっと胃の中にすみつづけます。日本での検討では中学生の感染率は５%程度です。

逆に、免疫力（抵抗力）が高まり、胃酸の分泌も大人と同程度になる中学生以降では、ピロリ菌に感染することは殆どありませんので、一度除菌治療を行えば、再度感染する心配も殆どありません（成人の検討では除菌成功後の再感染率は 0.22%/年）。

ピロリ菌に感染すると全員が胃炎になります。症状もなく感染が持続して胃炎が進行します。ピロリ菌による胃炎があると、胃潰瘍（いかいよう）や十二指腸（じゅうにしちょう）潰瘍が起こりやすくなります。胃潰瘍、十二指腸潰瘍の 70-90%はピロリ菌感染によって起こると考えられています。また、ピロリ菌感染は胃がんの原因であることもわかっています。日本では胃がんの９５%以上はピロリ菌感染が原因です。胃の病気以外では、貧血や血小板減少性紫斑病などの原因になることもわかっています。

ピロリ菌が感染していると症状は殆どありませんが、様々な病気の原因になります。

2. ピロリ菌を治療する（除菌治療）方法について：

胃酸の分泌をおさえる薬（プロトンポンプ阻害剤）と抗菌薬２種類（アモキシシリンとクラリスロマイシン（１回目）またはメトロニダゾール（２回目））の計３種類の薬を１週間内服することで、ピロリ菌の治療（除菌治療）ができます。北海道大学で企画した全国多施設の未成年者に対する１回目の薬剤と２回目の薬剤での除菌治療の成績を比較した研究の結果、１回目が 60%弱、２回目の治療法では約 100%の成功率で、副作用は重篤なものはなく、発生率に差はありませんでした。

そのため、治療は<u>プロトンポンプ阻害剤、アモキシシリン、メトロニダゾール</u>の組合せを７日間飲む治療を行います。抗菌剤の影響で下痢を認めることがあるため、抗菌剤に強い整腸剤（ミヤ BM）も一緒に飲んで頂きます。

ペニシリンなど<u>抗菌剤（抗生剤）で蕁麻疹などアレルギー症状</u>を起こしたことがある場合は、<u>必ず、事前に担当医に相談下さい。</u>なお、お薬を飲み忘れると除菌できない確率が上がるため、飲み間違いのないようパックになった写真の製剤をお渡しします。必

ず７日間しっかりと飲みましょう。

3. 治療の副作用など健康被害について：

下痢や軟便はピロリ菌を殺すために飲む抗菌剤のために大腸の善玉菌も減少するため、一番多い副作用です。予防のために整腸剤を一緒に飲んで頂きます。１日数回程度の軽い下痢、軟便の場合は治療を継続します。脱水になる程のひどい下痢や、血便の場合には、治療を中止して主治医の先生に相談して下さい。その他、味覚異常（味が少しおかしく感じる）や軽い嘔気などの副作用が現れることがありますが、いずれも治療が終わると自然に治るため軽度であれば治療を継続します。

一番注意が必要な副作用は、お薬に対するアレルギーです。軽い蕁麻疹程度の場合が殆どですが、ごく稀に（1000 人に１人より少ない割合）で呼吸する気道が腫れて息が苦しくなったり、血圧が低下するなどアナフィラキシーという状態になるとになることがあります。このような場合はすぐに病院へ行く必要があります。

日本の小児で除菌治療の安全性や副作用について調査した結果をご紹介します。厚生労働省研究費補助金（がん臨床研究事業）を用いて行った全国調査（2013～2014年）で、除菌治療を行った 18 歳以下の小児・青年 343 名について詳細な副作用を調査しました。副作用は全体で 14.7%に認め、軟便は 4.1%、軽度下痢 5.2%、投与中の発疹 2.1%などでした。また、578 名の報告のうち、治療による死亡や後遺症など、重篤な副作用はありませんでした。

４. 保険適応になっていないこと：

ピロリ菌を治療する薬剤の一部の医療用医薬品添付文書では、「小児等に対する安全性は確立されていない（使用経験が少ない）」と記載されており、**成人と異なり保険診療で治療を行うことは出来ず、**自由意志による**自費診療**となります。

料金は診察代、除菌判定検査を合計して税込み 6500 円、お薬は薬局で 3300 円程度、合計約 1 万円です。

なお、**成人と同様に胃内視鏡検査を受け、胃炎を診断した場合には、保険を利用して除菌治療を受けることも可能（保険の種類にもよりますが費用は 8000 円程度、函館市医療費助成を受けると 800 円程度）**です。家族に胃がんが居て心配など、内視鏡検査を受けたい場合は希望する旨を担当医にお伝え下さい。また、胃痛や貧血など症状がある場合は出来るだけ内視鏡検査を受けることをお勧めします。

先に示した副作用調査のように実際には除菌薬は小児に対しても使用されており、副作用も成人と変わりないことが知られています。また、海外では除菌療法に使われる薬剤は全て小児保険適用になっており、除菌治療も保険適用となっています。現在わが国でも小児の治験が終了して、承認を待っている薬剤もあります。この点につきましては、保護者とご本人でよく相談をしていただき、ご不明な点は遠慮無く担当医にご相談頂き、治療を受けるかどうかを決めてください。

5. 副作用が生じた場合の対応について：

副作用に対して治療が必要な場合は、通常の診療を行います。万が一、重篤な副作用が生じた場合には、最善の治療を行うと共に、病院が加入する保険などで最善の対応を致します。

6. ピロリ菌の検査：

尿検査で陽性の場合、函館市の負担で**尿素呼気検査**を受けて頂き、両方の検査が陽性の場合に除菌治療の対象となります。尿素呼気試験が陰性の場合は、尿検査の偽陽性（ピロリ菌に感染していないが誤って陽性の結果だった）であり、除菌の必要はありません。

７日間の除菌治療が終了してから、**８週間後以降**に除菌前と同じ尿素呼気試験を行い、除菌治療が成功したか判断し、お知らせ致します。除菌に失敗した場合には、個別に相談致します。

7. ピロリ菌感染による将来の病気を予防するために、特にお願いしたいこと：

中高生で除菌治療を受けることで将来の胃潰瘍、十二指腸潰瘍や胃がんをほぼ確実に予防できると考えられています。しかし、ピロリ菌に一度も感染していない人と比べると胃がんのリスクが大きい可能性があります。除菌成功後も症状がある場合は過信せず医療機関を受診して下さい。また、将来、胃がん検診など胃の検査を受ける機会には是非検査を受けて下さい。除菌に成功しても、社会人になるころまでに、一度内視鏡検査を受けられることをお勧めします。

治療を希望しない場合は、胃・十二指腸潰瘍やポリープ、胃がんになるリスクがある

ことを理解頂き、症状がある場合の受診や将来の胃がん検診の受診を強くお勧めします。

　また、全ての検査は 100%の精度ではないため、検査結果で陰性だった場合、除菌治療を行って成功した場合も、検診や医療で必要な場合は検査を受けて下さい。

同　意　書

（中学生ピロリ菌除菌治療）

国立病院機構函館病院　病院長様

私と保護者は、「中学生ピロリ菌除菌治療」の以下の項目について説明を受け、その内容を確認し、理解しました。その上で、私は除菌治療を受けます。
（確認したことは ・ にチェックをつけてください。）

- ・ １ ピロリ菌と病気について
- ・ ２ ピロリ菌の除菌治療方法について
- ・ ３ 治療の副作用など健康被害について
- ・ ４ 治療に使用する薬剤にアレルギーがないこと
- ・ ５ 保険適用ではないことについて
- ・ ６ 副作用が生じた場合の対応について
- ・ ７ ピロリ菌の検査
- ・ ８ ピロリ菌感染による将来の病気を予防するため、特にお願いしたいこと

平成　　年　　月　　日

住　　所＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

電話番号＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

氏　　名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿(自署)

保護者氏名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿(自署)

説明日時平成　　年　　月　　日　説明医：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿